

平成22年3月31日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008年度～2009年度

課題番号：20730262

研究課題名（和文）

看護師のキャリア・ストレスとワーク・ファミリー・バランスに関する実践的研究

研究課題名（英文）

A Practical Study on Career Stress and Work-Family Balance in Nurses

研究代表者

水野 基樹（MIZUNO MOTOKI）

順天堂大学・スポーツ健康科学部・准教授

研究者番号：20360117

研究成果の概要（和文）：

本研究は働く女性の中でも、家庭生活との両立が難しいといわれる交代制勤務従事者である看護師を対象に、病院組織における仕事生活と家庭生活の実態を調べ、職場内でのワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）と看護師のキャリア・ストレスとの関係に着目した。そして、組織的介入としての組織開発の効果に関する考察を行った。結果として、大学病院に勤務する看護師は、さまざまなストレスを抱えているためワーク・ライフ・バランスが実現できていないことが明らかになった。そのため、看護師のキャリア開発や病院組織の活性化には、組織的介入としての組織開発が有効であることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

This study focuses on the work-family conflict (WFC) concept as one of the indicators of work-family balance and clarifies the career stress which can lead to WFC. In this study, it was clarified that the respondents of nurses from university hospitals had difficulty in balancing work and family due to various stressors. In general, work-family balance has a significantly positive influence on health conditions and a significantly negative influence on work stress. Hence, more attention needs to be paid to nursing staff members, in particular to nurses of the administrative class, who play important roles in university hospitals. Hence, organizational intervention (organizational development) to nurses is highly effective for supporting the career development of nurses and organizational vitalization of university hospitals.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：ワーク・ファミリー・コンフリクト、キャリア・ストレス、組織的介入、組織開発、組織活性化、看護師、パーソナリティ

1. 研究開始当初の背景

看護組織の活性化のためには、各看護師が適切なキャリアを創造し、職業人生を充実させることが不可欠である。そのための介入は職場領域だけでなく、家庭領域へも行なわれる必要があるといえる。

2. 研究の目的

本研究では看護師を対象としたキャリア・ストレス・モデルを提示し、キャリア・ストレスとしてのワーク・ファミリー・コンフリクトの発生までの実証的研究を展開する。そして、職場と家庭の2つの領域への積極的な関与が重要であるという理論仮説を設定して、最適なワーク・ファミリー・バランスの構築に向けた、病院組織に対する組織的介入のガイドラインを開発することを目的とした。家庭及び職場環境ないしは労働条件といった状況要因から、キャリア・ストレスの発生までのプロセスを明確化し、看護師チームの活性化のために実施する組織開発のための有益な羅針盤を獲得する。本研究は、今後の医療現場に対する真に効果的な介入の視点を獲得するための重要な実践的研究である。

3. 研究の方法

質問紙調査法を用いて、実証的に看護師のキャリア・ストレスのメカニズムを解明した。本研究では、2つの大学病院に勤務する看護師を対象に調査を行うため、一般の企業人を対象とする尺度を適宜修正して質問項目を編み、さらにキャリア意識に強く影響を及ぼすと思われる要素(パーソナリティ、家族、ストレス、など)を、広範に調査分析するために信頼性のある尺度を構成した。看護師のキャリア・ストレスに対する意識がどのようにワーク・ファミリー・バランスに影響を及ぼしているのか。また家族構成などの個人的属性や年齢および経験年数などの違いが、どのような相互作用関係にあるのかに関して、各項目を類型化することによって最適なキャリア形成の在り方を提示することを試みた。そして、役割期待と役割葛藤というワーク・ファミリー・コンフリクト理論を用いた結論づけができるよう分析を展開した。

4. 研究成果

本研究は働く女性の中でも、家庭生活との両立が難しいといわれる交代制勤務従事者である看護師を対象に、病院組織における仕事生活と家庭生活の実態を調べ、職場内でのワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の両立)と看護師のキャリア・ストレスとの関係に着目した。そして、組織的介入としての組織開発の効果に関する考察を行った。結果として、大学病院に勤務する看護師は、さまざまなストレスを抱えているためワーク・ライフ・バランスが実現できていないことが明らかになった。とりわけ、20歳代と30歳代の看護師にその傾向が強く、明らかに出産や育児が影響して、キャリア・ストレスが増大しているということが浮き彫りとなった。そのため、看護師のキャリア開発や病院組織の活性化のための施策のひとつとして、職場が主体となったキャリア支援のためのプログラムの構築が強く望まれている。本研究では、いわゆるキャリアカウンセリングの提供などの臨床的アプローチ(個人的介入)ではなく、組織的介入としての組織開発が有効であることが明らかになった。半構造化されたグループによる啓発活動を通して、看護師が自分自身のパーソナリティを理解・受容し、態度(行動)変容へと結び付けていくプロセスが、看護師のワーク・ライフ・バランスに対する意識を変革させ、成熟したキャリア意識の醸成へと結実した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

Development of a Japanese Version of the Cambridge Depersonalization Scale and Application to Japanese University Students, Authors: Sugiura M, Hirokawa M, Nisi Y, Yamada Y, Mizuno M, Tanaka S
順天堂大学精神医学研究所紀要、2008年5月、93-101頁。

Reliability and validity of a Japanese version of the Cambridge depersonalization scale as a

screening instrument for depersonalization disorder,

Authors: Miyuki SUGIURA, Masataka HIROSAWA, Sumio TANAKA, Yasunobu NISHI, Yasuyuki YAMADA, Motoki MIZUNO, *Psychiatry and Clinical Neurosciences, March, 2009 Vol.63, pp.314-321.*

「参加型アプローチに基づく人間工学ロードマップ策定ステップの検討」『労働科学』2009年、第85巻第2号、73-88頁。

研究者：大橋智樹、榎原毅、申紅仙、水野基樹、堀野定雄、小木和孝、酒井一博、岸田孝弥

〔学会発表〕（計13件）

「看護職場における職場内のサポート意識とワーク・ライフ・バランスとの関係について」

研究者：水野有希、石川千鶴、水野基樹、伊藤舞依子、松田文子、吉川徹、酒井一博
日本人間工学会『人間工学会誌』第44号特別号、2008年6月、180-181頁。

「小集団討議に基づく人間工学ロードマップ策定の試み」

研究者：大橋智樹、水野基樹、榎原毅、申紅仙、堀野定雄、小木和孝、酒井一博、岸田孝弥

『日本人間工学会第44回大会講演集』2008年6月、132-133頁。

Relationship between Depersonalization Symptoms and Eating Disorder among Japanese Nurses,

Authors: Miyuki SUGIURA, Masataka HIROSAWA, Yasuyuki YAMADA, Yasunobu NISHI, Sumio TANAKA, Yujiro KAWATA, Motoki MIZUNO, *Applied Human factor and ergonomics (AHFE) Conference. (2008.714-17). Las Vegas, Nevada USA.*

Relation between continuous exercise and job stress among Japanese nurses

Authors: Kawata Y, Hirose M, Yamada Y, Sugiura M, Nishi Y, Tanaka S, Mizuno M
Applied Human factor and ergonomics (AHFE) Conference.2008.714-17).Las Vegas, Nevada USA.

Relationship between Depersonalization Symptoms and Eating Disorder among Japanese Nurses

Authors: Sugiura M, Hirose M, Yamada Y, Nishi Y, Tanaka S, Kawata Y, Mizuno M
Applied Human factor and ergonomics (AHFE) Conference.2008.714-17).Las Vegas, Nevada USA.

「人間工学ロードマップの効果的な目標設定における参加型手法の利点」

研究者：榎原毅、大橋智樹、水野基樹、申紅仙、堀野定雄、小木和孝、酒井一博、岸田孝弥

日本人間工学会『人間工学会誌』第45号特別号、2009年、506-507頁。

「大学病院に勤務する主任看護師の役割意識に関する研究—対人影響力の視点から—」

研究者：岡田綾、杉浦幸、山田泰行、水野基樹、広沢正孝、産業保健人間工学会『産業保健人間工学会第14回大会抄録集』2009年、10月、62-65頁。

「看護師レジリエンス尺度の信頼性と妥当性」産業保健人間工学会『産業保健人間工学会第14回大会抄録集』2009年、10月、82-85頁。

研究者：井原裕、尾形広行、犬塚彩、多田則子、永井敏郎、水野基樹

〔図書〕（計2件）

Work-family balance and stressors among Japanese administrative nurses, Motoki MIZUNO, Yasuyuki YAMADA, Masataka HIROSAWA, Miyuki SUGIURA, Yasunobu NISHI, Yujiro KAWATA, Sumio TANAKA: *Promotion of work ability towards Productive Ageing, CRC Press, Taylor & Francis Group, London March,2009*

『産業・組織心理学ハンドブック』産業・組織心理学会編、丸善、2009年。第Ⅲ部、作業「医療・看護労働」（396-399頁）、および「人間工学ロードマップにおける労働形態の未来予想」（130-133頁）を担当。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

水野 基樹 (MIZUNO MOTOKI)

順天堂大学・スポーツ健康科学部・准教授
研究者番号：20360117

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし